

## 名作再読、拾い読み (15)

## 『湖上の貴婦人』 "The lady of the lake"

小澤 文彦

バーナード・マラマッド (Bernard Malamud, 1914-1986) はアメリカの小説家で、ニューヨークのブルックリン出身です。両親はロシアから渡ってきた貧しいユダヤ人移民でした。ソール・ペロウ、フィリップ・ロスと並んで20世紀を代表するユダヤ系アメリカ人作家と言われています。

高校を出てからニューヨーク市立大学に入学し、大学卒業後すぐにコロンビア大学の大学院に進学しましたが、生活苦のため様々な仕事をしながら研究を続けました。31歳の時、結婚してニューヨークで夜間高校の教師になりますが、4年後にはオレゴン州立大学の講師となりました。1961年にはヴァーモント州ベニントン・カレッジに移り、20年以上に亘って文学を講義し創作を指導しました。1986年、マンハッタンのアパートで心臓発作のため急逝します。71歳でした。

彼が最初に発表した長編小説は『ザ・ナチュラル』(1952)で、後にロバート・レッドフォード主演で映画化されました。第2作の『アシスタント』(1957)で、彼の名前は広く知られるようになります。続いてそれまで発表した短編小説を纏めた『魔法の樽』(1958)が出版され、全米図書賞を受賞しました。長編小説の第3作『もう一つの生活』はニューヨークからオレゴンに移った経験が基になっています。第4作の『フィクサー』では帝政末期のロシアが舞台です。この小説は1967年にピュリッツァー賞と全米図書賞を合わせて受賞しました。

今回は、マラマッドの作品の中から『湖上の貴婦人』をお薦めします。イタリアの明るい舞台を背景に展開されるストーリーは美しく哀しいものなのに、何故かコミカルな印象を与えています。

ニューヨークにあるデパートの書籍売場監督ヘンリー・レヴィンは、ハンサムで活気のある30歳の独身男性ですが、遺産が手に入ったので退職し、ロマンスを求めて海外旅行をすることになりました。パリに来てから、名前を変えてヘンリー・R・フリーマンと自称し始めます。漠然とながら、レヴィンというユダヤ人の名前に縛られて来た過去を忘れてしまいたかったからです。

パリからミラノ行きの急行列車に乗った時、途中で見たマッジョーレ湖の光景に胸を打たれ、湖岸の町ストレーザで下車して暫く滞在することにします。部屋から見える湖とそこに浮かぶ4つの島の美しい景色には、泣きだしかねない程の感動を受けます。しかし、実際に島巡りをし

てみると3つの島は俗化されていて失望してしまいました。宿のおかみさんにその話をすると、イゾラ・デル・ドンゴという島は他の島と違って、見事な庭や古い城は見る価値があると言われます。

彼は遊覧船で観光客達と一緒にイゾラ・デル・ドンゴを訪ねますが、オレンジとレモンの香り、咲き乱れている様々な花の芳香に酔い痴れてしまいます。皆から離れてさまよっているうちに石段を上がって来た白い水着姿の娘に出会いました。彼女は優しく彼に声を掛け、アメリカ人かと尋ね、その後ためらいがちにユダヤ人かと尋ねました。彼は、心の中でショックを受けながら否定します。彼女はイザベッラ・デル・ドンゴだと名乗ります。その時、勝手な行動を取ったヘンリーを見つけた案内人が怒って彼を島から追い出してしまいます。ヘンリーは彼女に宛てて手紙を出し、日曜日の夕方島に来るようという返事をもらいます。彼女は城の中を案内し、夜になって月が昇り始めると裸になり、浜の近くに繋がれた筏に向かって泳ぎ始めました。驚いた彼は少し遅れてから裸になって泳ぎ始めますが、筏に泳ぎ着いた時は、既にイザベッラは浜辺へ戻ってしまっていました。火曜日に、二人は電車で山へ登ります。彼は結婚の申し込みをしたかったのですが、果たせませんでした。山から戻った時、彼女は辛そうに、自分が実は貴族デル・ドンゴ家の娘ではなく、城の管理人の娘だということを打ち明けます。別れた後で、彼はまたイザベッラに会いたくなり、島へと急ぎます。月の光の中で彼女はまたしてもユダヤ人かと尋ねます。彼が違うとはっきり答えたので、彼女は着ているチョッキのボタンをはずし、乳房に彫られた入墨を示しながら、ナチの収容所に入れられたことを告げ、自分はユダヤ人だから彼とは結婚できないと言って湖から沸き上がってくる霧の中に身を隠してしまうのでした。

嘘をついたために地獄で苦しむ人の絵の前でヘンリーが立ち止まる場面は、印象的な伏線となっています。自分の過去を忘れようとするヘンリーと、自分の過去の苦しみを大切に思っているイザベッラが会って愛し合っても、自分を偽るヘンリーにとって結末は悲しいものです。

## 参考文献

1. Bernard Malamud, "The lady of the lake" in "The magic barrel" (Rinsen Book, 1998)
2. マラマッド著;加島祥造訳『マラマッド短編集』(新潮社、1971)

おざわ ふみひこ (係・情報サービス課)